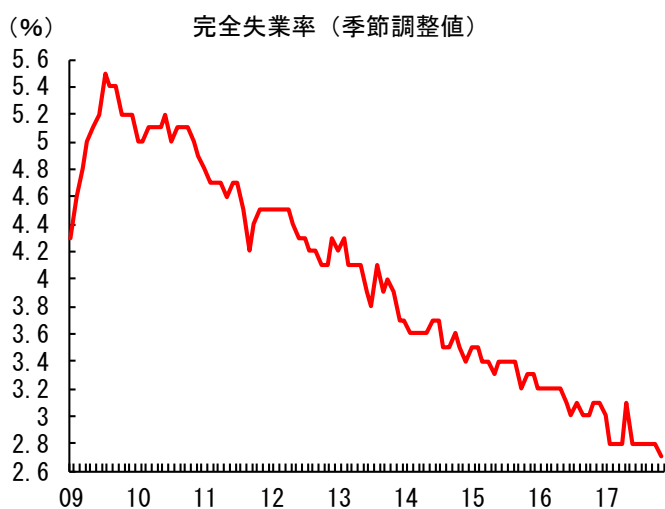


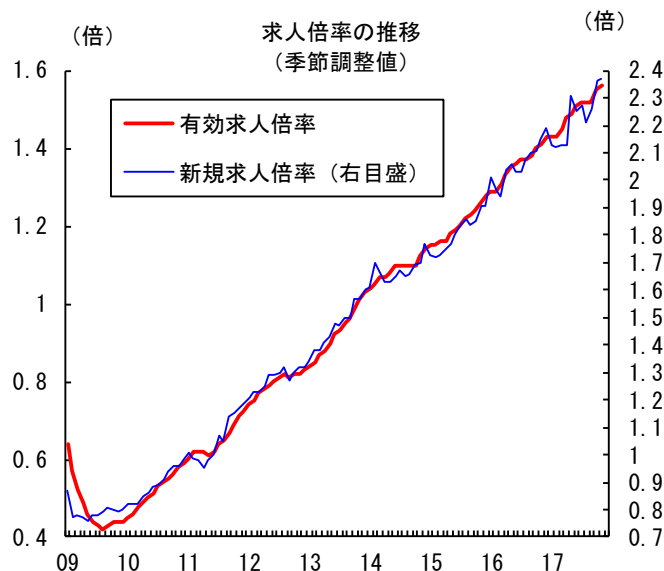
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2017年11月） 発表日：2017年12月26日（火）
 ～失業率が一段と低下。雇用の質も改善～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

○失業率が一段と低下。雇用の質も改善

総務省から発表された2017年11月の完全失業率は2.7%と、前月から0.1ポイントの低下となった（市場予想：2.8%）。これまで5ヶ月連続で2.8%となっていたが、ようやくその水準を割り込んだ。2.7%という数字は1993年11月以来、24年ぶりの低水準であり、労働需給が非常に引き締まった状態にあることが確認できる。季節調整済みの就業者数が前月差+14万人（10月▲6万人）、雇用者数が前月差+16万人（10月+3万人）と増加するなど、雇用の増加を伴った失業率低下であり、内容も良好だ。

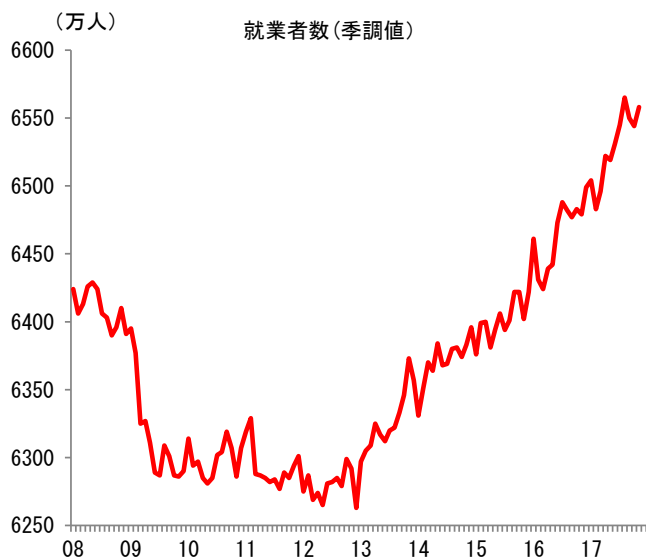
就業者数、雇用者数が着実な改善傾向にあることに加え、雇用形態別にみても、正規職員・従業員の雇用が前年比+2.6%と、前月の+2.0%から一段と改善していることも好材料だ。量的な面のみならず、質的な面でも改善が進んでいることが確認できる。

○労働需給の引き締まりが続く

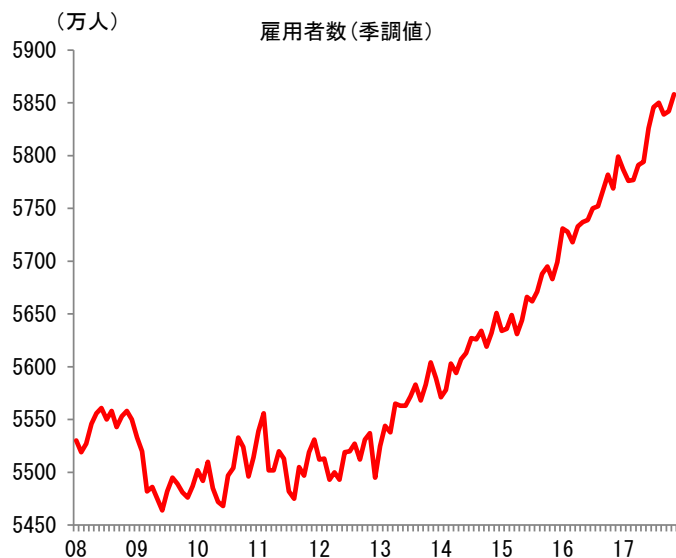
厚生労働省から公表された17年11月の有効求人倍率は1.56倍と、前月から0.01ポイントの改善となった。これでバブル期のピークである90年7月の1.46倍を8ヶ月連続で上回り、1974年1月以来の高水準となっている。失業率の改善と併せ、労働需給が非常に引き締まっていることを示す結果といえる。また、新規求人倍率も2.37倍と、前月から0.01ポイント上昇した。新規求人倍率は前月に0.1ポイントもの急上昇となっていたため、今月は反動による低下を予想していたが、予想に反して一段の上昇となった。また、正社員の有効求人倍率1.05倍と、前月から0.02ポイント上昇し、2004年11月の集計開始以来の過去最高水準を更新した。これで6ヶ月連続の1倍超えである。また、正社員の新規求人倍率も1.54倍と前月から0.03ポイント上昇し、着実な改善が続いている。正社員についても改善の動きがみられていることは明るい材料だ。

そのほか、企業の求人意欲を示す求人数（季節調整値）みても、有効求人数が前月比+0.6%、新規求人数

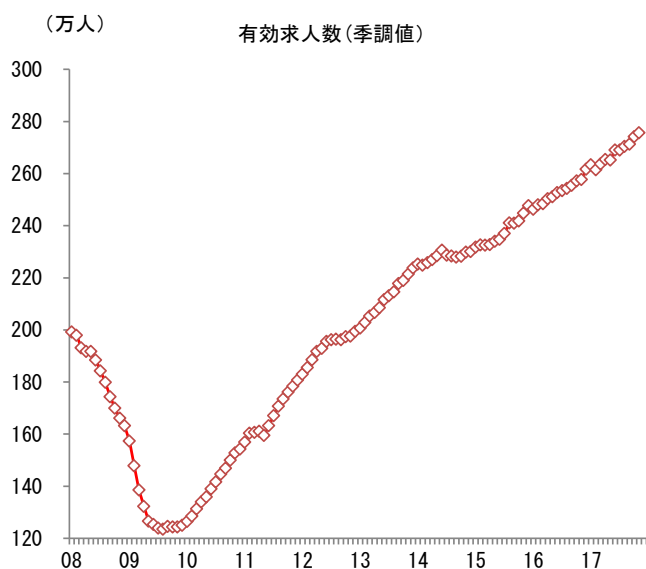
が+2.4%と増加している。引き続き、求人は明確な増加傾向にあり、企業の求人意欲が旺盛であることが確認できる。雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを持続するとみられる。失業率も2%台での推移が続く可能性が高い。



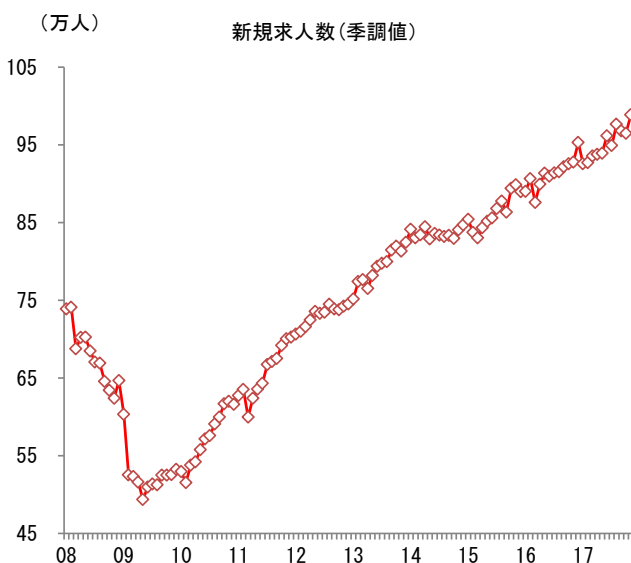
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」